繪本女今川　全

繪本
女今川

今川になぞらへて女子をいましむる制詞の條々

一 常に心ざしかだましき女乃みちをあきらめざる事

一 若年女無益の文寺入

一 舞を楽しむ事

一 少しき過ちとて改めど敗まて己れそ人を恨むる事

一 小事とても愚かにして勘考なく是問代誹謗する事

一 大事なりとも朋輩へたやすくうちとき人にもらさぬ事

一 主親忠深之恩を忘れず忠孝の道疎ならざる事

一 夫をかろしめわがまま成言く

天道を恐ざる事

一 道に背ても栄ゆる者のを羨く願がふ事

一 正直なる無遠慮人を

軽

うかろしむる事

一 遊びに長じ或は音曲に耽り
或は見物を事として好む事

一 短慮にして嫉妬の心ふかく
人の嘲を恥ざる事

一 女の猿利根あり儘に萬
事に付人を侮らるゝ事

一 人の相中に後を合されし
愁をかこち己が代を頼む事

一 衣裳道具おのれ美麗を
尽し召仕の見苦しきに事

一 貴賤それ〴〵の法をまもることを
毎人を気隨我儘く事
一 人を非とのみぞ我所
智は深とおもふ事
一 出家沙門に對面をせぬ

以ふと者側近くなる事
一 我分際を忘る事あるまじい
驕を好ひは不足たる事
一 下人の善悪撰へず召
仕ひやう正しからざる事

琴臨珠水彈名月
酒向東

一　舅姑に疎末にし人の誹謗を知らざる事

一　継子不孝にして他人の嘲哢を恥ざる事

一　男あるみは縦令男なる我

一　親類ありながら親戚に疎き事

一　道を守る人を嫌ひ己れに諂ふものを愛する事

一　人の心に我不機嫌なり

住家ありと稱し高の富貴乃事

をとこのみちなり地(ち)ハ陰(いん)にして和(やはら)ぐを以(もつ)て女の道(みち)とす陰(いん)と陽(よう)ふ隨(したが)ふ事天地(てんち)自然(しぜん)の道理(どうり)なるゆへ夫婦(ふうふ)のみちハ天地(てんち)に譬(たと)へて此(これ)だ

夫(をつと)を天(てん)としてよく敬(うやま)ふべし妻(つま)ハ則(すなハ)ち天地(てんち)の道(みち)されバ幼(いとけな)き時より仁(じん)を学(まな)び優(やさ)しく直(すぐ)なる心(こゝろ)明(あき)らかにまつ(?)うめ初(はじめ)まて懐(ふところ)こゝろえ

を知りのみ悪は其人の
殊に親しむ坐臥見て窺
ひ知らぬふりをするに折らば
誠に恥づかしき事ならん
況や暴家を乱すは女の嫉しく

貴賎なる生付多きを選
ての人を見浮世で朝夕遂
を守れずして善を好み移を
べし仁義礼智信乃五常
何れも人乃行ふべき道

まづハ親より人の教をまなんで
或ハへのしるべ男子ハ師に従
撰ミ是を修すれども女子ハ
たゞ其事しれ那く勝で歎き
しまつなるぞや夫女子ハ

いく程なく夫の家に行て貞
やまり舅姑に従ふる事を
選ば親に許し止るの習の
うちなり嫁まても孝行を
従ふ事ハ申す大二之面に紅

粉黛粧ひ鏡を見るも毎
心意内を照して人なし
唯平生嗜むべき我ハ言葉
もとれく有こなれども山く
貪ことなくハ縦貧しくとも　裏

後へ重是厚かくまで達
を照しむ於ことなれ又道
なる事く留まといで哉
賢人ハ諫め花嫌ふる逸
他行いだくて人をとるる

むまれ何らぞ素人も賤き
もあらざる文人愛弄なすべし
ては弟子達すらふるのほま
けのんれ善悪をとしぬ知ら
れぞれりぬ諸人の業

るくさ入ば善と思ふも又招く
ともに疎くて来しばらく時へ
まづもりハ思ふ惑のきずれと
去ぞ数多れ人傳き往来
ゑハ大学同門の草木園

氏子中

と照(てら)し給(たま)ふがごとく昼夜(ちうや)
慈悲(じひ)乃心を廻(めぐら)し主人(その)を
ふ[illegible]も召使(めしつか)也我身(わがみ)の如く
うへよりまゝにしなめ奴婢(ぬび)(をとこのけらいをんなのこしもと)をも
こゝろすべし僻事(ひがごと)するも悪(あく)人

と成(なり)善(ぜん)人とも成も主人の事
これ是(こゝ)を幼少(やうせう)よりよく教(そく)へ
よる扁し勤(さくべ)く世間(せけん)の嘲(あざけり)を
請(うく)ること誠(まこと)に口惜(くちをし)かるべく
よみしあるまじくや能(よく)ゝ慎(慎)

鏡湖三百里
菡萏發荷花
五月西施採
人看隘若耶

しむべし嗜(たしな)せへしあな
かしこ

女今川 終